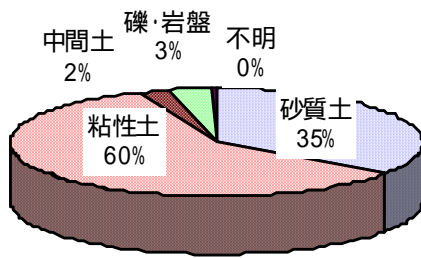


前回指摘事項

土質別の状況

土質別の状況

・2007年度の重要港湾等(特定重要港湾、重要港湾、開発保全航路)における浚渫土砂の土質は、粘性土が全体の60%、砂質土が35%、その他が5%の発生割合となっている。



土質別発生割合
(2007年度)

(単位: 万 m^3)

砂質土	粘性土	中間土	礫・岩盤	不明
603	1,026	36	59	6

計1,730万 m^3

土質別発生量
(2007年度)

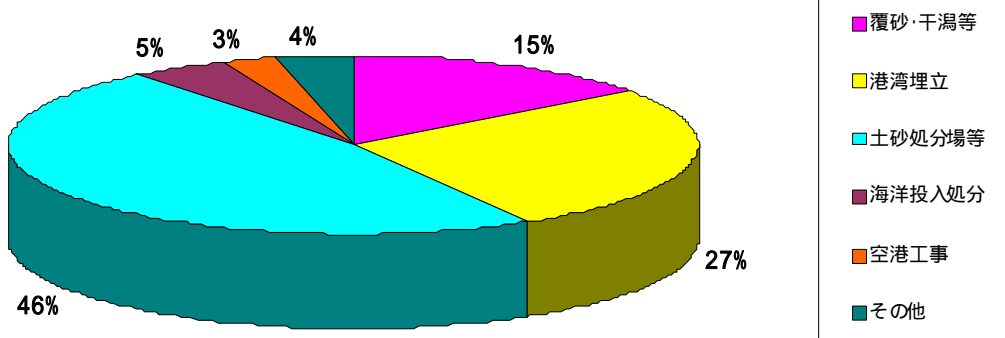
S

1

浚渫土砂の処分先

浚渫土砂の処分先

・2007年の重要港湾等(特定重要港湾、重要港湾、開発保全航路)における浚渫土砂の処分は、土砂処分場に約820万 m^3 (47%)、港湾埋立に約465万 m^3 (27%)が処分されている。
 ・また、覆砂・干潟等に約260万 m^3 (15%)が有効利用されており、海洋投入処分は浚渫土砂全体の約5%にあたる約83万 m^3 であった。



浚渫土砂の処分先
(2007年度)

2

図 2-1 浚渫土砂の処分先等について